



2020年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月12日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東
 コード番号 3981 URL https://www.beagle.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部担当役員兼社長室長 (氏名) 櫻井 祐一 (TEL) 03-6706-4000
 定時株主総会開催予定日 2021年3月25日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2021年3月31日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期の連結業績 (2020年1月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	12,378	-	1,136	-	990	-	470	-
2019年12月期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2020年12月期 470百万円 (-%) 2019年12月期 -百万円 (-%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年12月期	79.55	78.30	9.0	5.0	9.2
2019年12月期	-	-	-	-	-

(参考) 持分法投資損益 2020年12月期 -百万円 2019年12月期 -百万円

(注) 当社は2020年12月第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、2019年12月期の数値及び対前期増減率は記載しておりません。また、自己資本当期純利益率及び総資産経常利益率は、連結初年度のためそれぞれ期末自己資本及び期末総資産に基づいて計算しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期	19,741	5,224	26.5	881.22
2019年12月期	-	-	-	-

(参考) 自己資本 2020年12月期 5,216百万円 2019年12月期 -百万円

(注) 当社は2020年12月第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、2019年12月期の数値は記載しておりません。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年12月期	901	△3,938	4,302	3,230
2019年12月期	-	-	-	-

(注) 当社は2020年12月第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、2019年12月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2019年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2020年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2021年12月期(予想)	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

3. 2021年12月期の連結業績予想 (2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,374	-	449	-	376	-	91	-	14.82
通期	19,682	-	1,350	-	1,210	-	524	-	84.87

(注) 当社は2020年12月第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有
 新規 1社（社名）株式会社ぶんか社、除外 -社（社名）-

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期	6,175,661株	2019年12月期	6,150,198株
② 期末自己株式数	2020年12月期	246,723株	2019年12月期	250,223株
③ 期中平均株式数	2020年12月期	5,914,179株	2019年12月期	5,880,993株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2021年2月15日（月）に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報等)	11
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における日本経済は、1月までは雇用環境は改善傾向となり、企業収益や設備投資の一部に弱さが見られるものの緩やかな回復傾向でありましたが、2月以降は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による緊急事態宣言の発令等により経済活動の制限がなされ、急速な景気減速となり、先行きは依然として不透明な状況にあります。

コミックを中心とする電子書籍市場は、ユーザーの拡大及びユーザー平均購入量の増加が続いており、今後も電子書籍及び電子コミック市場の拡大が続くことが予想されております。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で巣ごもり消費も促されており、さらなるユーザーの増加、定着に寄与することが予想されております。（出典：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2020」）

しかしながら、電子書籍のビジネスモデルの多様化や成熟によって電子書籍市場が徐々に飽和していくことも想定されます。

このような市場環境の中で、当社は「まんが王国」連載作品の創出や独占先行配信タイトル等による品揃え及び編集機能の強化を進め、コンテンツの差別化に努めております。また、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を増やすべく、サービス改善やお得感を訴求するキャンペーン実施等のブランディング強化に注力いたしました。加えて、2020年10月には、コンテンツプロデュースカンパニーとしての機能拡充、コンテンツ制作の強化を目的として、総合出版社である株式会社ぶんか社を中核企業とするぶんか社グループの株式取得を行い、事業ポートフォリオの強化に努めました。

なお、当社グループでは当連結会計年度を通じて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の情勢に鑑み、お取引先の皆様、従業員並びに関係者の皆様の安全確保と感染予防・拡大防止に向けた対応を進めるとともに、事業成長との両立に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は123.7億円となりました（2020年12月期第4四半期より連結決算へ移行）。

以下、当連結会計年度における当社グループのプラットフォームセグメント及びコンテンツセグメントの主な活動状況であります。

プラットフォームセグメントの主力サービスであるコミック配信サービス「まんが王国」においては、累計126作品となる「まんが王国」連載作品の配信によってコンテンツの差別化を推進しております。「まんが王国」サイト内においては、ポイント購入と消費の両方であわせて毎日最大50%還元されるポイントプログラムを常時実施するとともに各種キャンペーンを実施する等、お得感を訴求や幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。なお、2020年10月から11月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査では、「お得感No.1」（最もお得に感じるサービス第1位）を獲得しております。また、2020年8月より、当社が提供する新ラジオ番組「まんが王国 presents 世界はまんがで出来ている！」を放送開始、さらに2021年1月よりTVCMの放映が決定する等、ユーザーの興味・関心を促進し、サイトへの流入を促す幅広い広告宣伝活動を実施しております。

これらの取り組みにより、2020年12月に累計ダウンロード数が14億冊、2021年1月に会員登録数が450万人を突破する等、継続的に成長しております（累計ダウンロード数は、無料タイトル及びコマ形式のタイトルを冊数換算したものを含んでおります）。

小説投稿サービス「ノベルバ」においては、2020年4月より、最優秀賞として株式会社竹書房での書籍化を確約した「恋愛小説コンテスト」を株式会社パブリッシングリンクと共同で開催するとともに、2020年11月にオリジナルレーベル「ノベルバノベルズ」を創刊する等、作家デビュー支援とサービスの差別化を行っております。

また、同年8月には、大人気ライトノベル「転生したらスライムだった件」をはじめとする株式会社マイクロマガジン社作品の配信を開始し、また同年12月には株式会社小学館ガガガ文庫の配信を開始する等、投稿作品だけでなく商業作品の許諾獲得にも注力し、幅広いジャンルでのコンテンツ拡充を進め、サイトの活性化に努めております。

IPプロデュースにおいては、MFブックスより書籍化されシリーズ累計発行部数は400万部を超える超人気小説である「無職転生～異世界行ったら本気だす～」のスマートフォンゲームの配信を発表する等、「まんが王国」とのシナジーを見据えたプロジェクトへの投資を行っております。また、オンラインイベントの開催やオンラインくじ発売等、様々なコンテンツのプロデュースやプロモーション支援活動にも取り組んでおります。

コンテンツセグメントにおいては、株式会社ぶんか社を中心に新規・既存タイトルの発刊、新人作家の発掘のためぶんか社グループが運営するスマートフォン向けコミックサイト「マンガよもんが」にて「マンガよもんが新人賞」を年4回実施する等精力的な活動を実施いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は12,378,124千円、営業利益は1,136,084千円、経常利益は990,695千円、親会社株主に帰属する当期純利益は470,492千円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。なお、当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しております。

(プラットフォームセグメント)

当セグメントの売上高は11,102,481千円、営業利益は894,533千円となりました。

(コンテンツセグメント)

当セグメントの売上高は1,322,209千円、営業利益は242,684千円となりました。

なお、当社グループは、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度との比較はしておりません。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における資産合計は19,741,111千円となりました。

流動資産は7,853,272千円となり、その主な内容は、受取手形及び売掛金が4,433,602千円、現金及び預金が3,230,336千円であります。

固定資産は11,887,838千円となり、その主な内容は、無形固定資産が11,611,210千円であります。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は14,516,399千円となりました。

流動負債は8,232,976千円となり、その主な内容は、支払手形及び買掛金が2,943,123千円、短期借入金が2,000,000千円、1年内返済予定の長期借入金が940,000千円、繰延収益が631,739千円であります。

固定負債は6,283,423千円となり、その主な内容は、長期借入金が6,245,000千円であります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は5,224,711千円となりました。その主な内容は、資本金が1,875,831千円、資本剰余金が1,875,331千円、利益剰余金が1,841,717千円であります。

この結果、自己資本比率は26.5%となりました。

なお、当社は2020年12月第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は3,230,336千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動においては、税金等調整前当期純利益864,115千円から、主な加算項目として、仕入債務の増加額659,382千円、のれん償却額386,554千円、減価償却費246,646千円等がありました。これに対して主な減算項目として、売上債権の増加額649,084千円、法人税等の支払額327,823千円、未払費用の減少額237,057千円等がありました。

この結果、獲得した資金は901,524千円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動においては、主な資金減少要因として、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出3,479,524千円等がありました。

この結果、使用した資金は3,938,102千円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動においては、主な資金増加要因として、長期借入れによる収入7,000,000千円、短期借入金の増加額2,000,000千円等がありました。これに対して主な減算項目は長期借入金の返済による支出4,595,000千円等がありました。

この結果、獲得した資金は4,302,386千円となりました。

なお、当社は2020年12月第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

(4) 今後の見通し

当社グループは、「固定観念にとらわれる事なく、新しい発見と進歩を求め続ける」という理念に基づき、電子書籍サービスを中核にクリエイターの創作物を配信するサービスやプロジェクトの提供を進めてまいりました。

今後の電子書籍市場は、さらなる競争の激化が予想されます。このような事業環境において、当社グループは電子書籍サービスの成長とIPプロデュースの収益化を実現することでコンテンツプロデュースの拡大およびグループ間でのシナジーの加速を図ってまいります。

プラットフォームセグメントにおいては、「まんが王国」の継続成長に注力するとともに、他サービスの収益化も推進してまいります。中核サービスである「まんが王国」では、幅広いユーザーに向けたポイント購入と消費の両方であわせて毎日最大50%還元されるポイントプログラムを常時実施するとともに、多種多様なキャンペーン等を積極的に行うことで、顧客満足度向上に努め、訪問・定着・課金を促し、売上高向上を目指してまいります。また、「まんが王国」連載作品の創出にさらに注力することで「ここでしか読めない」作品数を拡大していき、また未契約作品の許諾獲得も進める等、品揃えを強化します。これらの取り組みによって、付加価値の高いサービスを提供し顧客満足度向上に努め、定着率の改善や課金者数の増加を目指します。なお、プロモーション活動につきましては従来のインターネット広告の効率性をより重視した運用を引き続き実施するとともに、ユーザーの興味・関心を促進し、サイトへの流入を促す幅広い広告宣伝活動等にも取り組んでまいります。小説投稿サービス「ノベルバ」においては、引き続きコンテンツの拡充によるサービス単体での収益化とコミカライズ化による既存サービスとのシナジー創出に取り組みます。

IPプロデュースにおいては、着実に伸長させたマーケティング支援を軸に引き続き将来の柱となるサービスの育成に努め、ゲームにおいては、「まんが王国」とのシナジーを見据えたプロジェクトへの投資と収益化を目指します。

コンテンツセグメントにおいては、デジタルコンテンツの強化及び紙出版の最適化を行っていくとともに、グループ間でのシナジーを加速させるべく、「ノベルバ」配信作品のコミカライズや、新規ジャンルの開拓等の売上増加施策の実施とコスト削減とを並行して行い、グループ全体での利益の増加を図ってまいります。

以上を踏まえ、中期経営計画数値は目標として掲げつつ、2021年12月期の通期業績見通しについては、売上高は19,682百万円、営業利益は1,350百万円、経常利益は1,210百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は524百万円を予想しております。

なお、上期においては「まんが王国」の成長のためのサイト流入を促す広告宣伝活動に注力するため2021年12月期の第2四半期累計の見通しについては、売上高は9,374百万円、営業利益は449百万円、経常利益は376百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は91百万円を予想しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際財務報告基準(IFRS)の適用時期等につきまして、我が国における適用動向を注目している状況であり、今後の適用については未定であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

		当連結会計年度 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		3,230,336
受取手形及び売掛金		4,433,602
商品及び製品		76,524
貯蔵品		1,265
前渡金		10,438
前払費用		36,506
未収入金		51,805
その他		42,314
貸倒引当金		△29,522
流動資産合計		7,853,272
固定資産		
有形固定資産		
建物		14,662
建物附属設備		48,838
工具、器具及び備品		185,683
減価償却累計額		△188,816
減損損失累計額		△9,426
有形固定資産合計		50,941
無形固定資産		
のれん		10,882,880
ソフトウェア		262,490
コンテンツ資産		296,127
ソフトウェア仮勘定		3,742
コンテンツ資産仮勘定		164,586
その他		1,382
無形固定資産合計		11,611,210
投資その他の資産		
敷金及び保証金		148,955
繰延税金資産		58,170
その他		18,560
投資その他の資産合計		225,686
固定資産合計		11,887,838
資産合計		19,741,111

(単位：千円)

当連結会計年度
(2020年12月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	2,943,123
短期借入金	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	940,000
未払金	347,247
未払費用	163,321
未払法人税等	442,286
未払消費税等	104,818
繰延収益	631,739
返金負債	596,896
預り金	28,240
その他	35,300
流動負債合計	8,232,976
固定負債	
長期借入金	6,245,000
繰延税金負債	38,423
固定負債合計	6,283,423
負債合計	14,516,399
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,875,831
資本剰余金	1,875,331
利益剰余金	1,841,717
自己株式	△368,169
株主資本合計	5,224,711
純資産合計	5,224,711
負債純資産合計	19,741,111

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
売上高	12,378,124
売上原価	7,670,886
売上総利益	4,707,237
販売費及び一般管理費	3,571,153
営業利益	1,136,084
営業外収益	
受取利息	16
受取配当金	68
受取返戻金	14,834
助成金収入	2,423
その他	54
営業外収益合計	17,397
営業外費用	
支払利息	38,001
融資手数料	116,416
消費税等調整額	6,796
その他	1,572
営業外費用合計	162,786
経常利益	990,695
特別利益	
新株予約権戻入益	486
特別利益合計	486
特別損失	
減損損失	126,869
その他	196
特別損失合計	127,066
税金等調整前当期純利益	864,115
法人税、住民税及び事業税	402,719
法人税等調整額	△9,096
法人税等合計	393,622
当期純利益	470,492
親会社株主に帰属する当期純利益	470,492

連結包括利益計算書

	(単位：千円)
	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
当期純利益	470,492
包括利益	470,492
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	470,492

(3) 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,868,930	1,868,430	1,371,988	△373,392	4,735,957
当期変動額					
新株の発行	6,901	6,901			13,802
親会社株主に帰属する 当期純利益			470,492		470,492
自己株式の処分			△763	5,222	4,459
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	6,901	6,901	469,728	5,222	488,753
当期末残高	1,875,831	1,875,331	1,841,717	△368,169	5,224,711

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	486	4,736,443
当期変動額		
新株の発行		13,802
親会社株主に帰属する 当期純利益		470,492
自己株式の処分		4,459
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△486	△486
当期変動額合計	△486	488,267
当期末残高	-	5,224,711

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	864,115
減価償却費	246,646
減損損失	126,869
のれん償却額	386,554
支払利息	38,001
融資手数料	116,416
売上債権の増減額 (△は増加)	△649,084
仕入債務の増減額 (△は減少)	659,382
立替金の増減額 (△は増加)	69,322
未払金の増減額 (△は減少)	△230,482
未払費用の増減額 (△は減少)	△237,057
繰延収益の増減額 (△は減少)	△78,452
未払又は未収消費税等の増減額	△44,473
その他	△1,259
小計	1,266,498
利息及び配当金の受取額	85
利息の支払額	△37,236
法人税等の支払額	△327,823
営業活動によるキャッシュ・フロー	901,524
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△8,943
無形固定資産の取得による支出	△408,581
敷金及び保証金の差入による支出	△41,054
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△3,479,524
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,938,102
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,000,000
長期借入れによる収入	7,000,000
長期借入金の返済による支出	△4,595,000
融資手数料の支払による支出	△116,416
株式の発行による収入	13,802
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,302,386
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,265,808
現金及び現金同等物の期首残高	1,964,528
現金及び現金同等物の期末残高	3,230,336

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの変更

当社は、株式会社ぶんか社およびそのグループ会社である株式会社海王社、新アポロ出版株式会社、株式会社文友舎、株式会社楽楽出版の持株会社である株式会社NSSK-C（2020年10月8日に株式会社ぶんか社グループに商号変更）のさらに持株会社である株式会社NSSK-CC（2020年10月8日に株式会社ぶんか社ホールディングスに商号変更）の全株式の取得に伴い、2020年12月期第4四半期会計期間より「プラットフォームセグメント」及び「コンテンツセグメント」に変更しました。

(2) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社グループのうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は、事業種類のセグメントから構成されており、「プラットフォームセグメント」及び「コンテンツセグメント」を報告セグメントとしております。

(3) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「プラットフォームセグメント」は、当社の既存事業であるまんが王国を中心としたユーザー課金ビジネス及びその付帯ビジネス等で構成されております。

「コンテンツセグメント」は、当社の子会社であるぶんか社グループの既存事業を中心とした電子書籍、出版及びそれらの付帯ビジネス等で構成されております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価額に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)1	連結財務諸表 計上額(注)2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツセグ メント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,102,481	1,275,643	12,378,124	-	12,378,124
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	46,566	46,566	△46,566	-
計	11,102,481	1,322,209	12,424,690	△46,566	12,378,124
セグメント利益	894,533	242,684	1,137,218	△1,133	1,136,084
セグメント資産	11,582,169	16,414,056	27,996,226	△8,221,890	19,774,335
その他の項目					
減価償却費	240,721	5,925	246,646	-	246,646
のれん償却額	292,149	94,405	386,554	-	386,554
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	712,300	3,121	715,421	△160	715,261

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,133千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり純資産額	881.22円
1株当たり当期純利益	79.55円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	78.30円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	470,492
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	470,492
普通株式の期中平均株式数(株)	5,914,179
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—
普通株式増加数(株)	94,662
(うち新株予約権(株))	(94,662)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—

(重要な後発事象)

連結子会社間の合併

当社は、2020年10月30日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社ぶんか社ホールディングス及び株式会社ぶんか社グループの吸収合併を実施することを決議し、2021年1月1日に実行いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

① 結合企業

名称 株式会社ぶんか社ホールディングス
事業の内容 出版

② 被結合事業

名称 株式会社ぶんか社グループ
事業の内容 持株会社

(2) 企業結合日

2021年1月1日

(3) 企業結合の法的形式

株式会社ぶんか社ホールディングスを存続会社とし、株式会社ぶんか社グループを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

株式会社ぶんか社グループ

(注) 株式会社ぶんか社ホールディングスは2021年1月1日付で上記商号に変更いたしました。

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループの経営の一環として、グループ管理の効率化を図ること、関係会社の統括会社であることを明確にするために吸収合併及び商号変更をいたしました。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理します。